



東北復興日記

まだまだ

▶▶▶ 219



NPO法人田んぼ理事長

岩淵成紀さん

宮城県から岩手県に広がる農家の屋敷の周りに植えた木(居久根)で越冬していることが分かりました。専門家にもあまり知られていないことでした。

居久根は、冬の季節風や、洪水、地震から屋敷を守るなどの利点は分かっていたようですが、天敵を育む場所でもあったのです。こうした視点で見ると、カエルやトンボなども居久根に依存していることが分かります。

宮城県北部に広がる大崎平野の農地「大崎耕土」には、全世帯の四割に当たる二万四千三百戸に居久根＝写真＝が残っているまれな

イネの害虫で厄介なのは、斑点米の原因となる米粒ほどの小さなカメムシです。米が固くなる前のミルク状の時に、とがった口ですり、痕に黒い斑点を残すのです。斑点が増えるたびに米の格付けが落ち、買い取り価格が下がります。

農薬で防ぐことができますが、天敵を使うことでも制御できるこ

いぐね 居久根の役割 また一つ



地域です。東日本大震災で内陸部の最大震度を観測しながら、滅失システムが働いた要因でもありません。これが価値のある一要素として評価され、大崎耕土は世界農業遺産に認定されるための過程を歩んでいます。

農水省によると、世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農業システムを、国連食糧農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

農村文化の豊かな地域では、生物と文化の多様性が向上するシステムの重要性が見えてきます。

とが分かってきました。天敵とは血状の巣を張るアシナガゴモ類のこと。無農薬の水田に多くいて、朝露の際には見事な景観になります。

冬の間はどこで過ごしているのか不明でしたが、昨年の調査で、

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。